

2022年11月11日

2023年3月期 第2四半期決算の発表について

昭和産業株式会社（社長：新妻一彦）の2023年3月期第2四半期連結決算は、売上高163,410百万円、経常利益3,312百万円となりました。2023年3月期連結業績予想については、売上高338,000百万円、経常利益5,500百万円を見込んでおります。

【2023年3月期第2四半期連結決算】

当第2四半期連結累計期間の我が国経済は、新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴う行動制限の緩和により、経済活動の正常化が進み景気は緩やかな回復傾向が続きました。

しかしながら、原料穀物は世界的に旺盛な需要に加え、ウクライナ情勢の長期化による深刻な供給懸念により、依然として原料穀物相場は歴史的な高値で推移しております。さらに、為替相場の円安ドル高進行に歯止めがかからず輸入コストやエネルギーコストの上昇なども重なり、引き続き極めて厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社は創立90周年を迎える2025年度のありたい姿（長期ビジョン）「SHOWA Next Stage for 2025」の実現に向けた2nd Stage「中期経営計画20-22」の最終年度を迎えました。5つの基本戦略「①基盤事業の強化」「②事業領域の拡大」「③社会的課題解決への貢献」「④プラットフォームの再構築」「⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化」の各施策の推進に努めております。

当第2四半期連結累計期間では、「①基盤事業の強化」において、プレミックス事業を発展・進化させるための基幹工場として船橋工場内に「船橋プレミックス第2工場」を新設し、6月より操業を開始いたしました。また、8月には油脂食品・糖質事業において、より一層の製品供給の安定化、コスト低減、付加価値向上を目的に、辻製油株式会社と業務提携を発表いたしました。両社の持つ経営資源を有効活用することで、更なる競争力強化を目指してまいります。

「③社会的課題解決への貢献」では、「昭和産業グループ 環境目標」を新たに設定いたしました。CO2排出量46%以上削減（グループ全体2030年度目標、対2013年度）、食品ロス発生量30%以上削減（昭和産業及び食品ロス発生量が年間100t以上のグループ会社6社2025年度目標、対2018年度）、水使用量原単位12%以上削減（グループ全体2030年度目標、対2019年度）の実現を目指してまいります。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高は163,410百万円と前年同期に比べ23,496百万円（16.8%）の増収となりました。営業利益は2,317百万円と前年同期に比べ88百万円（3.7%）の減益、経常利益は3,312百万円と前年同期に比べ382百万円（13.1%）の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,947百万円と前年同期に比べ144百万円（8.0%）の増益となりました。

【2023年3月期連結業績予想】

2023年3月期通期連結業績予想につきましては、2022年8月5日に公表した「通期業績予想（連結・個別）および配当予想に関するお知らせ」に記載の数値から変更しております。

第2四半期連結累計期間（4～9月）の業績の動向を踏まえ、現時点において入手可能な情報及び予測等に基づいて2023年3月期通期連結業績予想を算定致しましたので、詳細につきましては、本日（2022年11月11日）公表いたしました「通期業績予想（連結・個別）の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

<本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先>

昭和産業株式会社 経営企画部コーポレート・コミュニケーション室

TEL：03-3257-2042 担当：赤松